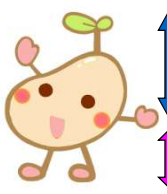
令和３年産

ＪＡ北九州普及指導センター

大　豆　栽　培　暦

根粒菌を活かし大豆の収量向上に努めましょう！！



根粒菌の窒素固定で１８０kg

＋

地力窒素で１２０kg

収量３００kg/10a取りのイメージ

○根粒菌は、湿田等、環境が悪いと活動が低下します！

○根粒菌を活かすには！！
①土壌を湿った状態にすること（地下水位40cm以下）
・開花期の乾燥は特に厳禁！

②排水を良くし、酸素にふれさせること
・湿害や土がしまっているほ場は酸素が少ないので注意！

③ｐＨを適正に保つこと
・最適ｐＨは６．０～６．５です

月	旬	生育相	主な作業
6	中		①堆きゅう肥・土壌改良資材の施用 ②排水対策（周囲溝、弾丸暗きょ、畝立てなど） ③施肥・耕起整地
6	下	播種期	・種子消毒・播種 ・除草剤散布
7	上	生育期	
7	中		・第1回中耕培土 本葉2～3枚 （播種後15日）
7	下		
8	上		・第2回中耕培土 本葉4～5枚 （播種後25～30日）
8	中	開花・幼莢期	・病害虫防除 ①ハスモンヨトウ（早播は特に発生に注意） 白変葉(若齢幼虫集団)が発生したら除去 効果が高い若齢期に防除 ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ誘殺数のピークから10日後に防除
8	下		
9	上		・乾燥時の畝間灌水
9	中	子実肥大期	・病害虫防除 ①ハスモンヨトウ ②カメムシ類 幼莢期～子実肥大期の9月中～下旬に防除 ③紫斑病 カメムシ同時防除
9	下		
10	上		
10	中		
10	下		
11	上	成熟期	・青立ち株・雑草除去
11	中		
11	下		・収穫

ネキリムシ

ハスモンヨトウ

白変葉

マメハンミョウ

ミナミアオカメムシ

紫斑病

①散布前には必ず農薬ラベルの確認！　②散布前に隣接するほ場等の関係者への情報提供の実施
③散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底　④散布後は必ず散布器具（タンク・ホース等）を洗浄
⑤防除履歴の正確な記帳

■ほ場の選定と土づくり
① 排水良好な水田を選び、大豆ほ場の集団化をはかる。
② 地力増強のため、堆きゅう肥(0.5～1t/10a)を施用する。
※連作ほ場では、チッソ入りのベスト444を使用してください。

■排水対策
排水不良田では生育不良となるので、地下排水（本暗きょ、弾丸暗きょ）と地表排水（周囲溝、畝立て）を組み合わせて排水対策を行ってください。

■土壌改良材と肥料

	使用資材名	施用量 (kg/10a)	成分量（kg/10a） チッソ	リン酸	カリ
土改材	粒状ミネラルG	160～200	ー	ー	ー
土改材	粒状苦土石灰	100～120	ー	ー	ー
肥料	ベスト444	15	2.1	2.1	2.1

① 麦ワラをすき込んだ場合は、チッソ成分を1kg程度増やす
② 土壌診断によって石灰資材の投入量を調整する
③ 遅播や生育不良の場合は、開花期までにチッソ成分で2kg程度追肥する

■栽培様式（播種深度は3cmが基準）

栽培型	播種時期	播種量 kg/10a	条間 cm	株間 cm
早播	6月下旬	2.5～3.0	70	40～30
適期播	7月1～10日	3.0～4.5		30～20
遅播	7月11～21日	4.5～6.0		20～15
晩播の場（狭畦密植）	7月22～7月末	6.5～8.0		14～11
			35～40	20

※梅雨時期は湿害対策で浅く播き、梅雨明け後は乾燥対策で深播き（5～6cm）を！
※地力の高いほ場は早播きすると倒伏しやすいので、連作や湿害の出やすいほ場から播種する（遅くても7月末まで）
※降雨等で出芽不良が著しい場合は、早めに播き直しを行いましょう

■種子消毒

薬剤名	処理方法	使用量	対象病害虫
キヒゲン	種子粉衣	種子1kgに薬剤10g粉衣	紫斑病・ハト他
キヒゲンR-2フロアブル	種子塗沫	種子1kgに薬剤20mL塗沫	紫斑病・ハト他
クルーザーMAXX	種子塗沫	種子1kgに薬剤8mL塗沫	紫斑病・キネリムシ類・ハト他

※クルーザーMAXXは、湿潤条件でも有効だが乾燥条件下では発芽率が低下するので、注意！

■除草剤　**連作ほ場や雑草多発ほ場は、播種前からの体系防除を行いましょう！**

○茎葉処理剤（播種前に発生している雑草を枯らす）

	除草剤名	10a当たり使用量	希釈水量	使用時期
	ラウンドアップマックスロード	200～500mℓ	50～100ℓ	耕起前～出芽前
	プリグロックスL	600～1,000mℓ	100～150ℓ	播種前、播種後～出芽前

○土壌処理剤（播種後に発生する雑草を抑える）

	除草剤名	10a当たり使用量	希釈水量	使用時期
粒剤	ラクサー粒剤	4～8kg	－	播種後～出芽前
粒剤	サターンパアロ粒剤	4～6kg	－	
乳剤	ラクサー乳剤	400～800mℓ	100ℓ	
乳剤	サターンパアロ乳剤	600～1000mℓ	70～100ℓ	
水和剤	フルミオWDG	5～10g	100ℓ	

※フルミオWDGは、広葉雑草用ですので、ラクサー乳剤等と混用しましょう

○茎葉処理剤（生育中に発生している雑草を枯らす）

	除草剤名	10a当たり使用量	希釈水量	使用時期
	ポルトフロアブル	200～300mℓ	50～100ℓ	イネ科雑草3～10葉期（収穫30日前まで）
	アタックショット乳剤	30～50mℓ	100ℓ	広葉雑草生育期（大豆2葉期～開花前 収穫45日前まで）
	パワーガイザー液剤	200～300mℓ	100ℓ	広葉雑草発生始期～2葉期（大豆出芽直前～3葉期）
	大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）	100～150mℓ	100ℓ	広葉雑草生育初期～6葉期（大豆2葉期～開花前 収穫45日前まで）

※ポルトフロアブルはイネ科雑草用です。周囲の水稲にかからないように注意しましょう！
※アタックショット乳剤・パワーガイザー液剤は広葉雑草用です。褐変・黄化等の症状がみられることがありますが、その後の生育に影響はほとんどありません。
※大豆バサグラン液剤はポルトフロアブルと混用可能です。
※乾燥条件で散布すると効果が劣ります。乳剤は希釈水量を増やす（登録の範囲）などの対策を！

■病害虫防除

	農薬名	10a当たり使用量 希釈倍率	使用液量	ハスモンヨトウ	カメムシ類	紫斑病	使用時期（収穫前）	使用回数
粉剤	トレボン粉剤DL	4kg	－	○	○		14日前まで	2回
粉剤	アルバリン粉剤DL	3kg	－		◎		7日前まで	2回
粉剤	スミトップM粉剤	3～4kg	－		○	○	21日前まで	4回
液剤	プレバソンフロアブル5	4,000倍	100～300L	◎			7日前まで	2回
液剤	トレボンEW	1,000倍		○	○		14日前まで	2回
液剤	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍			◎		7日前まで	2回
液剤	トップジンM水和剤	700～1,500倍				○	14日前まで	4回

※マメシンクイガが出たほ場はプレバソンフロアブル5を使用（ハスモンヨトウの防除時期）する

■収穫
① 大部分の葉が落ち、莢が褐変し、振れば「カラカラ」音がするか、茎が手でポキッと折れたら収穫します（子実水分20%以下）。
② 青立株やホソアオゲイトウなどの大型雑草は汚損粒の原因となるので、刈取前に抜き取る。

農薬の登録は令和3年5月25日現在